

南海地震に備える

香川県防災局 乃田 俊信

<17>

避難行動のポイント

【避難は早めに、落ち着いて!】

大地震が発生し、最初の揺れで建物が倒壊する危険を感じたときは、直ちに建物の外に避難しなければなりません。それ以外のとき

は、慌てず、最初の揺れが収まってから、周囲の安全をよく確かめながら落ち着いて避難しましょう。

また、次のような場合は早めに避難しましょう。

地震まめ知識④

《避難場所と避難所》

避難場所は、災害が起こったときに身を守るために、一時的に避難する場所で、公園や広場などが指定されているケースが多いようです。

一方、避難所は、地震等による倒壊や火災などによって家を失った人たちが、一定期間避難生活を送る場所です。公民館や学校などが指定されるケースが多く、防災・救援の拠点となり、負傷者の救援や給水・給食などもここで行われます。

- ① 市町から津波がけ崩れなどの避難勧告や避難指示が出たとき
高齢者など避難に時間がかかる人は、避難準備(要援護者避難)情報が出たとき
- ② 余震で建物が倒壊する危険性があるとき
- ③ 近所で火災が発生し、延焼のおそれがあるとき

あるとき



能登半島地震で避難所となった公民館で休む被災者＝石川県輪島市で今年3月25日

④ 危険物が爆発するおそれがあるとき

【避難行動時は、危険がいっぱい】
地震で避難する場合、地面の亀裂、ガラスなどの破片の散乱、余震による瓦や看板の落下、ブロック塀の転倒など危険がいっぱいです。安全な避難経路を選び、身軽で行動しやすい服装で避難しましょう。特に、お年寄りや子供など援護を必要とする人たちは、みんなの手助けするとともに、早めに避難しましょう。
また、避難に伴う2次災害(火災、盗難等)にも注意しましょう。

▽避難するときの服装等

- ① ヘルメット(防災ずきん)をかぶり、軍手や手袋をはめる。
- ② 長袖・長ズボンを着用、燃えにくい木綿がよい(ストッキングはやけどのもと)。
- ③ 持ち物は(両手が自由になるよう)リュックサックに。非常持ち出し品は最小限に!
- ④ 靴は運動靴など、底の厚い、はき慣れたものをはく。

▽安全な避難のポイント

- ① 避難する前に、再度火元をチェック。停電していてもブレーカーを切る。戸締りも確実に。
 - ② 車は使わず(山間部など一部の地域を除く)、必ず徒歩で避難。お年寄りや子供などは、手をしっかり握り誘導する。
 - ③ できるだけ近所の人たちと集団で、指定された避難場所へ。
 - ④ 狭い道、塀ぎわ、川べりなど危険な場所は避けて避難。
- 【次号のテーマ】
次号では、「非常持ち出し品・備蓄品の準備」についてお話しします。